一般社団法人茨城県環境保全協会

協会だより

2023 年(令和 5 年)度
第 12 号（通巻第 117 号）
2024 年 3 月 1 日発行
一般社団法人茨城県環境保全協会
発行担当　広報委員会
水戸市平須町 1825-192　平須ビル 202
TEL 029-303-6007
FAX 029-303-6008
URL　http://www.kankyo-ibaraki.com/
Mail　info@kankyo-ibaraki.com

2024 年度（令和 6 年度）行事予定について

	理　事　会	行　事　予　定	外部行事予定	備　考
2024年4月	17日（水）理事会			
5月	18日（土）理事会	第11回通常総会　水戸京成ホテル（5/18）		
6月	12日（木）理事会		（一社）日本環境保全協会　総会6/19 関東地区協議会　総会（千葉県）	
7月	17日（水）理事会	不法投棄パトロール活動（第1回目）		
8月	21日(水）理事会		霞ヶ浦ECOフェステバル （霞ヶ浦環境科学センター）	
9月	18日（水）理事会	講習会予定（浄化槽関係）		
10月	16日（水）理事会			
11月	20日（水）理事会	不法投棄パトロール活動（第2回目）	（一社）日本環境保全協会全国大会 香川 関東地区協議会　研修会（千葉）	
12月	18日（水）理事会			
2025年1月	15日（水）理事会	新年会（水戸京成ホテル）	（一社）日本環境保全協会　賀詞交歓会	
2月	19日（水）理事会			
3月	19日（水）理事会	霞ヶ浦・北浦清掃大作戦（3月第1日曜日）		

当協会の年間行事予定計画は、5 月 18 日に開催される定時総会の席上で、会員皆様の承認を得て決定するものではありますが、2 月度役員会でその案が承認されましたので、取り急ぎ皆様へご案内させていただきます。

主だった行事は例年通りの計画となっており、定時役員会は毎月 1 回の開催、不法投棄は 7 月と 11 月に予定しました。

また、定時総会後の懇親会と、来年 1 月の新年会についても、コロナ禍以前と同様に開催する予定ですので、会員皆様の積極的な行事へのご参加をお願い申し上げます。

尚、11 月には上部団体である(一社)日本環境保全協会の全国大会が香川県高松市で、1 月には東京で賀詞交歓会が開催されます。

これらの行事は協会役員以外の会員各位におかれましても参加は自由となっております（交通費および参加費は役員を含む全員が個人負担となります）ので、その様子は過去の協会だよりでもご報告してありますが、ご興味のある会員様のご出席もお持ちしております。

大子町新衛生センター竣工式

大子町衛生センターは令和元年 10 月に上陸した台風による大雨により浸水被害をうけ機能が全停止してしまいました。

それにより当協会は大子町からの支援要請を受けて、令和 2 年 4 月より令和 5 年 11 月までの 3 年と 8 カ月の間、会員企業が交代で毎日 7.5 トンの汚泥を大子町衛生センターから東海村の衛生センターまで運搬しました。

この度、機能停止した施設の損傷の状況や今後起こりえる水害や地震への対応など、防災についてあらゆる観点を考慮した新しい衛生センターが完成し 2 月 17 日（土）に竣工式が行われ当協会もご招待をいただき岡島理事長が出席してまいりました。

当日は梶山弘志衆議院議員をはじめ多くの来賓の皆様が出席されていましたが、大子町議会議長　菊池靖一様からは来賓挨拶のなかで当協会の汚泥運搬についての感謝の言葉をいただきました。

竣工式終了後は内覧会があり、災害対策や臭気対策が行われ発酵槽（資源化施設）を備えた最新の施設を見学させて頂きました。

大子町の汚泥運搬に御協力いただきました会員の皆様には、深く御礼を申し上げます。

富山県浄化槽センター・環境保全協同組合の皆様と意見交換会

2 月 16 日(金)かねてより予定しておりました標記意見交換のために、長塚副理事長、池田副理事長、秋山理事、小林理事の４名で富山県を訪問してまいりました。

午後１時に富山県の浄化槽指定検査機関でもある(公社)富山県浄化槽協会の事務局を訪問し、その会議室にて、上田理事長をはじめとした協会の皆様、また、富山県環境保全協同組合の広瀬理事長及び副理事長の竹林様にもご出席を賜り、ここ最近の富山県における浄化槽行政などについてお話を伺いましたが、どうしても話題は 1 月 1 日に発生した能登半島地震のことになってしまい、発生後の支援活動などの情報も伺いました。

震災発生直後から石川県能登地方にはバキューム車をはじめとしてパッカー車などが近県から支援活動のために入ってきており、富山県からも毎日数台の車両が能登地方で活動を

行っているとのことで、原則土日の作業は休みということになっていながらも、意見交換会の最中や、夕食会の際にも多数の電話連絡が入り、車両や人員の手配等でお忙しそうでありました。

今回の富山県訪問は、昨年 11 月に千葉県で行われた(一社)日本環境保全協会　全国大会の席上で、(一社)全国浄化槽団体連合会の会長として参加されていた上田様との会話の中で富山県へのお誘いをいただき、それに応えたものであり、震災後には再度訪問の可否を問い合わせましたが、富山市内の被害は比較的軽微であり、是非お越しくださいとのことでしたので、今回の訪問を実行しました。

また、当日は当協会から持参したお見舞金も富山県環境保全協同組合の広瀬理事長へ、長塚副理事長より贈呈をさせていただきました。

翌日は帰りの新幹線まで時間がありましたので、レンタカーを借りて能登半島に近い高岡市氷見市まで足を延ばしてきましたが、やはり一部には道路の隆起や家屋の倒壊、屋根瓦の崩落などもあり、2011 年に茨城県にも大きな被害をもたらした東日本大震災当時のことを思い出しました。

意見交換会の席上でも避難所のトイレ問題が出ましたが、県内でも震災から 10 年以上経ってしまい、記憶が風化しつつある中で今回の能登半島地震が起こり、もう一度会員各位におかれましても地元自治体と災害時のトイレ清掃について話し合う必要性を感じた富山県訪問でした。

お忙しい中をご対応いただきました(公社)富山県浄化槽協会及び富山県環境保全協同組合に皆様ありがとうございました。

2 月度定例役員会

2 月 21 日(水)午前 10 時より 2 月度の定例役員会を協会事務所にて開催いたしましたので、当日の議事内容等についてご報告いたします。

出席理事
岡島理事長　池田副理事長　秋山　小林　早川　佐野　石井　犬塚　樋口理事（理事１３名中９名出席）　露崎　佐藤監事

協議事項
①役員改選について
5 月の総会にて役員の任期が終了することから、次期役員候補者について協議検討しましたが、一部結論には至らず 3 月度の役員会で継続審議となりました。
②2024 年度の年間行事予定及び事業計画について
2024 年度の年間行事予定及び事業計画について協議検討し承認されました。
③協会だよりについて
協会だより 2 月号の内容について広報研修委員会より提案があり承認されました。県内全ての市町村、県の関係機関に無料配布しています。もし、ご希望の関係者の方がありましたら当協会までご連絡下さい。

報告事項
①浄化槽講習会出席状況について
3 月 2 日の浄化槽講習会の出席状況について事務局より報告がありました。
②新年会会計について
1 月 27 日の新年会の会計報告が事務局よりありました。多くの会員の皆様にご出席頂きありがとうございました。
③（一社）茨城県産業資源循環協会賀詞交歓会
1 月 30 日ホテルレイクビュー水戸で行われた（一社）茨城県産業資源循環協会の賀詞交歓会に来賓として岡島理事長が出席しました。
④富山県視察研修について
2 月 16 日に視察した富山県の状況について池田副理事長より報告がありました。
⑤大子町衛生センター竣工式について
2 月 17 日（土）大子町衛生センターの竣工式があり岡島理事長が出席しました。
⑥災害協定について
市町村より災害協定の問い合わせあったことが事務局より報告がありました。協定締結になりましたら紙面にて報告いたします。

以上の内容で役員会を開催いたしました。

日環協青年部事業推進協議会に参加

春の兆しを感じながらもまだまだ寒さが厳しい令和 6 年 2 月 1 日に、宮城県仙台市にて一般社団法人日本環境保全協会青年部事業推進協議会主催の研修会並びに懇親会が開催されました。

今回が 7 回目とあって北は北海道から南は熊本県まで全国の環境保全に携わる同業のしかも次世代を担う若い世代の方々が多数参加され活発な意見交換が行われ、当協会からは次世代委員会をまとめる山村理事、次世代委員会リーダーの藤枝氏、育成員の小林氏と古谷氏の 4 名が参加致しました。

はじめに仙台市が取り組むプラスチックごみの再商品化事業を視察致しました。プラスチック資源循環促進法の全国第一号となる再商品化計画の認定を受けたＪ＆Ｔ環境株式会社仙台工場は、仙台市の一般家庭から分別排出、収集されたプラスチック使用製品廃棄物をベール化（分別収集物を圧縮・結束し、飛散対策が図られているもの）する施設、それを原料としてプラスチック製品の原料となるフレークを製造するプラスチック再生処理施設、そのフレークから物流用のパレットを製造する施設が同敷地にある工場で、プラスチックごみが再生されるまでの全工程を見学することができる工場でした。作業員による手選別や様々な工程を通して高品質なベール品を生成し、そこから生み出される物流用パレット、ごみ袋、プランターなどの商品や、商品にできなくても熱源として利用できる固形燃料を製造する過程は非常にレベルが高いリサイクル現場で、その現場を直接肌で感じることができたのは非常に良い経験となりました。

また、東日本大震災で甚大な被害を受けた仙台市蒲生地区に建設された株式会社東北バイオフードリサイクルの食品リサイクル工場を視察致しました。

この工場は食品廃棄物（一廃）などから微生物の働きによるメタン発酵によってバイオガスを生成し発電する工場で、メタン発酵で発生する消化液も肥料として用いられます。廃棄物の受け入れは包装されたままでも不適物を除去できるため、非常に収集しやすいと感心致しました。

そのあとの懇親会では能登半島地震の現地状況報告として富山県環境保全協会組合の原野理事様から報告があり、現地の被災状況、特に下水施設、浄化槽、仮設トイレなどの現状、協会として実施している支援内容を現地の人たちとのやり取りなどを交えた生の情報として伺うことができました。また、他県の方々ともこの業界の未来像について熱く語り合うことができました。

今回の研修会は平日開催のため、日常業務のことを考えると参加することを躊躇致しました。しかしながら、一般廃棄物の可能性、天災による当協会が担う業務の重要性、何よりも同じ志を持つ同業の方々が全国にいらっしゃるということが非常に心強く、そして勉強になる研修会となりました。

次世代員は随時募集しております。このような研修やその他イベントも催しておりますので興味のある方は是非当協会までご連絡ください。何卒よろしくお願い申し上げます。

(文　次世代育成委員会)